

愛知県支部だより

稲熊大城

日本透析医会の皆様、こんにちは。このたび愛知県透析医会会長を拝命いたしました名古屋第二赤十字病院の稲熊大城と申します。私の10年以上も先輩で、かつ長く透析医会会長を務められました渡邊有三先生より大役を引き継ぐ形となりました。まだわからないことが多く、どこから手をつけていってよいのか迷い多き現状ではありますが、日本透析医会の支部としての役目も合わせて努力する所存でございますので、何卒よろしく願い申し上げます。

さて愛知県は、日本透析医学会統計調査委員会の報告によれば、慢性透析患者数が東京、大阪、神奈川に次ぐ全国第4位で約16,800人とされています。また年間約1,500人が新規に透析導入されるという現状です。保存期の患者は名古屋大学、名古屋市立大学、藤田保健衛生大学ならびに愛知医大の4大学とその関連施設で管理、さらには導入され、近隣の透析専門あるいは透析中心のクリニックで維持透析を受けていただいているという状況であり、非常にスムーズな連携ができていますと自負しております。透析医療に関わる施設が愛知県透析医会に入会され、現在160を超える施設の入会をいただき、様々な機会での情報の共有と親睦を図っております。

現在の具体的な活動についてご紹介申し上げます。毎月第一火曜日に総務委員会を開催し、保険診療、災害対策、透析に関する医療安全、研修会の企画ならびに県内で発生した透析に関わる事例など、多岐にわたる話題で活発な議論が展開されます。特に保険診療についての関心が高く、委員のメンバーには国保ならび

に社保の審査員を兼ねている先生もいるために、ホットな情報が速やかに伝達されています。災害対策に関しては、渡邊有三前会長のご尽力により、毎年の防災の日には会員施設全体による災害訓練を実施しています。愛知県下をブロックに分け、核となる施設を中心に被害状況の情報収集を行い、愛知県透析医会本部に主としてFAXをするという訓練であり、これは日本透析医会の活動に準じてオーバーラップする形で実施されています。

研修会に関しては、毎年末に講演会を実施しております。昨年は11月24日に「知っておくべきHIV感染症の知識」という演題名で、国立国際医療研究センター・エイズ治療研究開発センターの照屋勝治先生をお招きいたしました。数多くの参加者があり、今後増加が予想されるHIV感染透析患者に対する知識の獲得に非常に有益である内容であったとともに、活発な議論がなされました。また、毎年年2回、愛知県透析セーフティマネージメント研究会が開催されます。昨年も例年通り、2月に第15回と10月に第16回の2回、本研究会代表幹事である明陽クリニックの鶴田良成先生、ならびに当番幹事である増子記念病院の佐藤久光先生、岡崎市民病院の朝田啓明先生のご企画で、それぞれ新葛飾病院の豊田郁子先生ならびに川島病院の水口潤先生にご講演いただき、いずれの会も300名以上の参加を得ることができました。透析に関わるスタッフがいかにかこのテーマに関心が高いかを実感する研究会であり、今では愛知県透析医会の「目玉商品」の一つとなっております。

今後の当会の活動としては、昨年と引き続き定例総務委員会の開催で、会員間の情報共有を図っていく予定です。災害対策に関しては、地域毎の病院とクリニック間で実践されている活動を尊重し、それを支援するようなスタンスでの関わりをしていこうと災害対策委員長である光寿会リハビリテーション病院の伊藤功先生と計画しております。研修会に関しては、例年通りの講演会と2回の愛知県セーフティマネジメント研究会を企画していく予定です。

当地区で力を入れている臨床研究の一つに愛知県透析導入コホート研究（AICOPP 研究）があります。この研究は直接愛知県透析医会とは関係ないのですが、愛知県下の17の基幹病院が参加して、慢性腎臓病の保存期後半から透析導入期の管理状況が、透析導入後の予後にどこまで関連するかという非常に興味深いリサーチクエストを探るための研究です。これには先の17の基幹病院のみならず、維持透析となって日々通院を行う透析専門クリニックなど多数の透析関連施設のご協力をいただく共同研究であり、まさに愛

知県総力（一部で他県への転院があり、近隣の県のご施設にもご協力いただいております。）で取り組んでおります。2011年10月から症例登録が開始され2013年9月に終了し、今後予後調査が定期的に施行されます。愛知県下で透析導入される患者の約半数に当たる1,525例の登録が完了しており、研究結果には個人的にも、また愛知県透析医会としても期待しておるところであります。

最後に、透析医療の抱える問題点は多岐にわたり、ただ単に透析治療のみを実施していればすむという時代ではなくなりました。診療報酬の改定に伴う診療内容の見直し、透析患者の高齢化、心血管合併症、認知症、介護、透析差し控え、ならびに医療事故など枚挙に暇がありません。その中でも我々透析医療従事者の一員である透析医は、透析患者の予後の改善とともにQOLの向上を目指した医療を展開することが義務付けられていると感じる今日この頃です。今後とも愛知県透析医会をよろしくごお願い申し上げます。